

テ、之ヲ征伐セシメタレドモ、餘燼猶ホ未ダ滅セザリシカバ、嵯峨天皇弘仁二年、更ニ征夷將軍文室綿麻呂ヲシテ、精兵二萬ヲ率キテ之ヲ討タシメ、僅カニ其ノ遺藁ヲ薊鋤シ、餘類ヲ殄滅スルコトヲ得タリ、而シテ蝦夷ノ事ハ、尙ホ地理部蝦夷篇ニ在レバ、宜シク參看スベシ、佐伯ハ、サヘキト云フ、蝦夷ト同種ナリ、日本武尊東征ノ時、其捕獲シタル蝦夷ヲ伊勢神宮ニ獻ズ、蝦夷等、旦夕喧噪シタリシカバ、倭姬命號シテ佐祁毗ト爲ス、佐伯ハ即チ其語ノ轉訛ナリト云フ、後之ヲ畿外諸國ニ移配セシメラル、

名稱

〔伊呂波字類抄加人倫〕蝦夷東カ東エ西ヒ蠻南狄北胡同
〔撮壤集下人倫〕夷東戎西蠻南狄北胡同

〔日本書紀神武三〕戊午年十月、我卒聞歌、俱拔其頭椎劔、一時殺虜、虜無復嚙類者、皇軍大悅、仰天而咲、
略○中 又歌之曰、愛瀨詩鳥毗儂利毛毛那比苦比苦、破易倍廼毛多牟伽毗毛勢儒、此皆承密旨而歌之、非敢自專者也、

〔古事記傳二十七〕蝦夷は延美斯ニなり、名義は身に凡て長き鬚の多きを以て、蝦になぞらへたるなり、○中 斯の意は未思得ず、後には訛りて延毘須と云、又後には延毘須と云をば夷字戎字などの訓に用ひて、蝦夷をば延叙とのみ云り、○中略さて蝦夷は、皇國人とは形も心も何も同じからず、固種類の甚く異なる物にして、其國は今もいはゆる蝦夷島にて、皇國とは海を隔て、外國にして、其域異なり、然るに上代よりして、其國人陸奥の北邊の地に渡來て住著たる者多く、註 つぎ／＼に蕃息て、陸奥の中央までも弘びりて、皇國人と雜居しなり、

種屬

〔日本書紀皇極二十四〕元年九月癸酉、越邊蝦夷數千内附、
〔日本書紀齊明二十六〕元年七月己卯、於難波朝饗北越蝦夷九十九人、東陸奥蝦夷九十五人、○中仍授柵養蝦夷九人、津刈蝦夷六人、冠各二階、